

哲学の道デザイン検討会議



第3回会議資料

デザイン検討議題

第3回会議：哲学の道の路面デザインの検討について

- 第2回会議の振り返り
- 樹木医へのヒアリング
- ゾーニングの検討
- 路面デザインの検討

第2回会議の振り返り

第2回会議：令和7年6月10（火）に第2回の会議を開催し、事務局（京都市）から哲学の道の路面を検討する上で配慮すべき項目や環境に対する専門家へのヒアリング内容を説明した後、委員の皆様から整備の必要性、サクラへの影響、区間に応じた整備や整備時期、路面の種類等について、様々な御意見を頂きました。

ヒアリング結果のまとめ

- ・ 工事中の生物や樹木に対する影響の軽減
- ・ 樹木等が健全に生育できる環境及び路面の検討

舗装することでサクラにどのような影響が出るのかを樹木の専門家（樹木医）へヒアリングを行う必要がある。



○配慮（検討）項目

- ①沿道住民の生活環境への配慮
- ②道路の安心・安全（維持管理面）への配慮
- ③景観への配慮
- ④環境への配慮
- ⑤その他

○区間に応じた整備内容

今後の方向性

全区間を画一的な舗装で一律に整備を進めるのではなく、それぞれの地域の課題に応じて丁寧に変化をつけながら、全体の基調を整えていくということが望ましいのではないかと。

各地域の特徴に応じてゾーニングを行う

3

樹木医へのヒアリング

■ 専門家：植彌加藤造園株式会社

- ・ 哲学の道の近くに本社があり、樹木医が在籍する造園会社
- ・ 生物多様性に配慮した庭園の育成管理等に取り組む

■ ヒアリング内容

現地の試掘も行いながら哲学の道のサクラの根の生え方の特徴、工事に対する影響、それへの対策についてヒアリングを実施

4

樹木医へのヒアリング(試掘箇所)



①



②



③



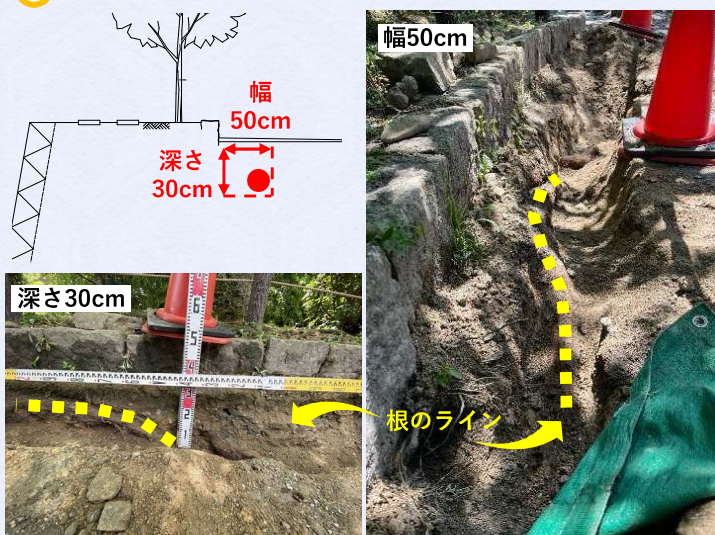
- ・縁石付近で土が盛り上がっている3箇所を選定
- ・縁石から約50cmの幅を人力により掘削

5

樹木医へのヒアリング(試掘状況)



① 縁石に沿って根の張り出しあり(深さ約30cm、幅約50cm)



浅い位置にある根

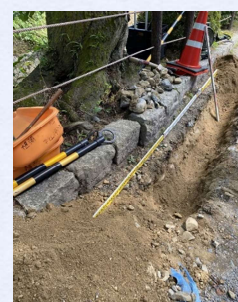
道路側へ伸びている根



② 根の張り出しなし(細根あり)



③ 根の張り出しなし



6

樹木医へのヒアリング(ご意見)

試掘調査結果

- ・3箇所中1箇所目で根の張り出しを確認。太さから、支持根ではない。
- ・2箇所目については、切断しても生育に影響のない細根を確認。
- ・根は基本的に縁石に沿って伸びている。
- ・横断方向に伸びている根が1本あったが、どこまで伸びているかは不明。

試掘箇所以外(推測)

- ・砂利道は非常に硬かったため、根は伸長しづらい。
- ・30cm程度の深さでは、サクラの生育に影響のある根はあまりないと考えられる。

対処方法

- ・掘削作業の際は、根を傷つけることなく施工する。
- ・根をやむなく切断する場合、サクラへの影響を少なくする方法として、切断面に殺菌癒合促進剤及び発根促進剤を塗布することが考えられる。
- ・根を切断した際に枝も部分的に減らすことで、水の吸収量と蒸散量を調節し、樹木全体のバランスを整える方法もある。
- ・サクラの根にとって良い環境は、通水・通気性が一定確保されていること。

7

ゾーニングの検討

検討項目

① 沿道の利用状況

沿道建物(住居や店舗等)を
カテゴリー別にマッピング

② 道路交通法の規制

車両通行可区間
自転車歩行者専用道路

③ 現地の舗装状況

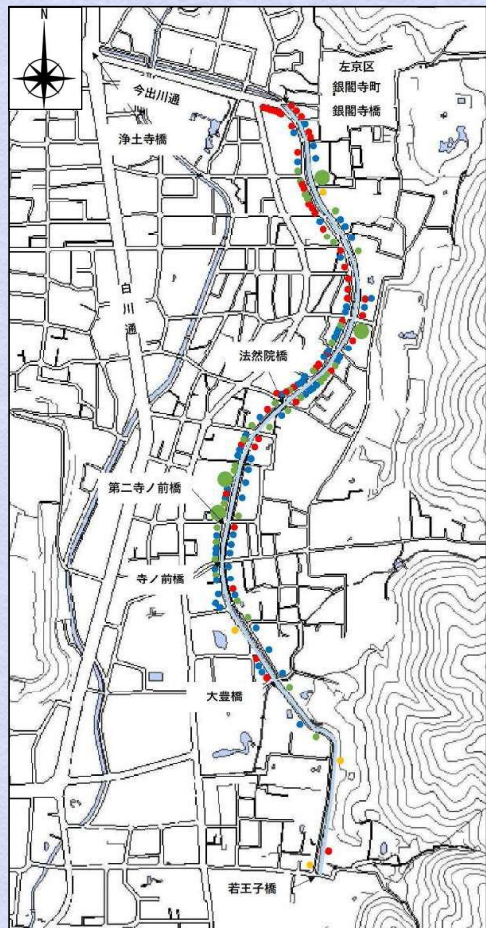
舗装状況

④ 景観地区・地域

岸辺型美観地区(一般地区)
風致地区第3種地域(岡崎・南禅寺
特別修景地域)

8

ゾーニングの検討 ～①沿道の利用状況～



哲学の道約1.5km（銀閣寺橋～若王子橋）
における沿道の利用状況

マーク	カテゴリ	件数	割合
	店舗	48	32%
	住居（ガレージなし）	61	42%
	住居（ガレージあり）	34	22%
	月極等駐車場	4	2%
	店舗・住居以外(寺社仏閣等)	4	2%

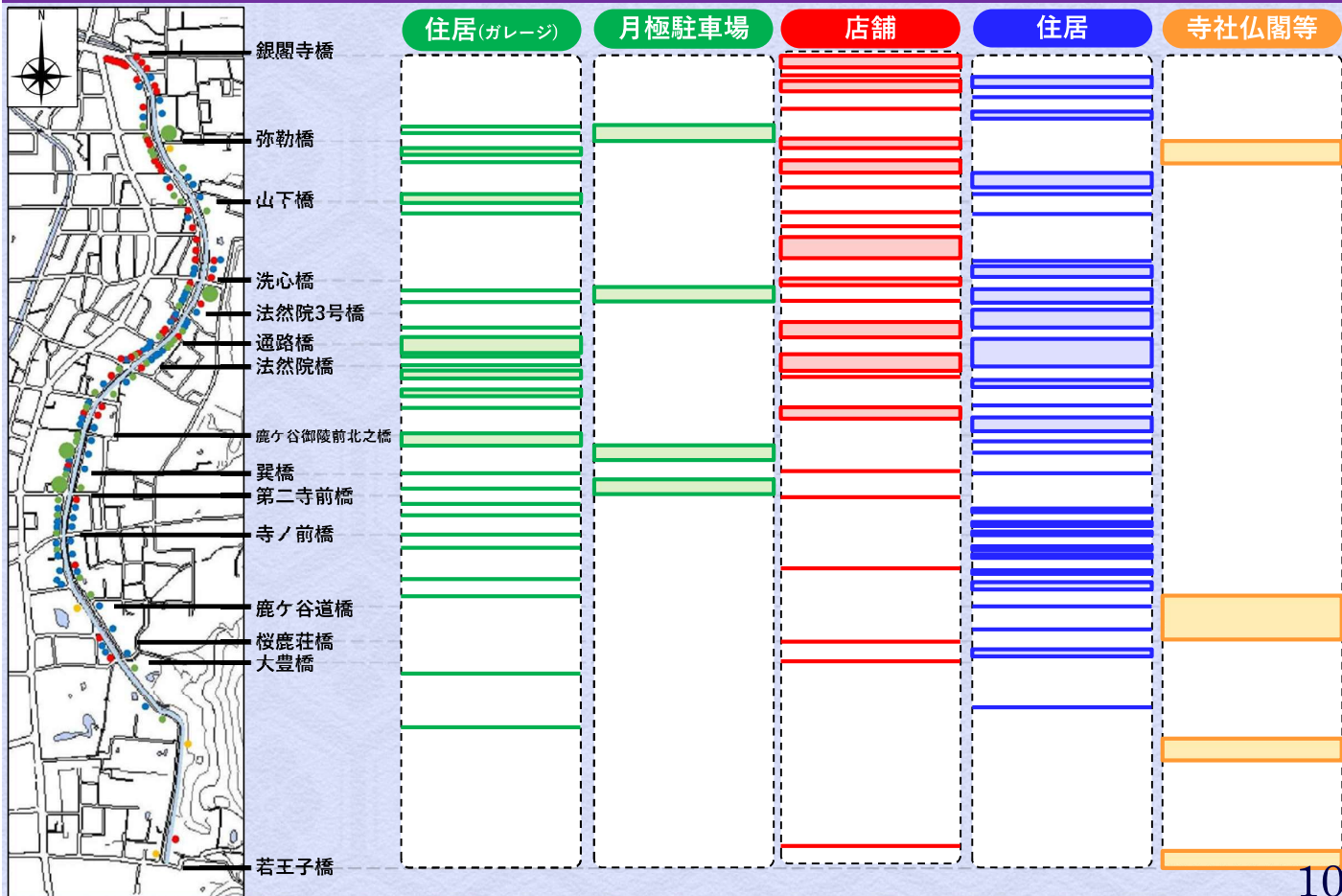
件数の特徴

- ・半数以上が住居(64%)
- ・約 1 / 3 が店舗(32%)

建物の点在状況

- ・ 銀閣寺橋～大豊橋(店舗+住居)
密集して建っている
- ・ 大豊橋～若王子橋(店舗+住居)
まばらに建っている

ゾーニングの検討 ～①沿道の利用状況～



ゾーニングの検討 ～②道路交通法の規制、③現地の舗装状況～

交通規制の状況



車両通行可
土日休
9:00-18:00
は
自転車歩行
者のみ



自転車歩行
者のみ



現地の舗装状況

自然色舗装
(自然石固定型)



砂利舗装
(自然石移動型)



自然色舗装



砂利舗装



11

ゾーニングの検討 ～④景観地区・地域～



京都市では、景観地区等における建築物や工作物に対して、景観保全に関する規制を地区ごとに定めている。

※景観規制については、路面デザインに適用されるものではないが、検討の参考として紹介するもの

岸辺型美観地区(一般地区) 銀閣寺橋～大豊橋

建築物の屋根以外の色彩に関して、
「自然景観と調和する色彩とすること。」

土や自然素材に多いR(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)、N(無彩色)系の色相で、低彩度かつ中明度の色彩を基本とする。
(アルファベットはマンセル値の色相を示す。)



風致地区第3種地域(岡崎・南禅寺特別修景地域) 大豊橋～若王子橋

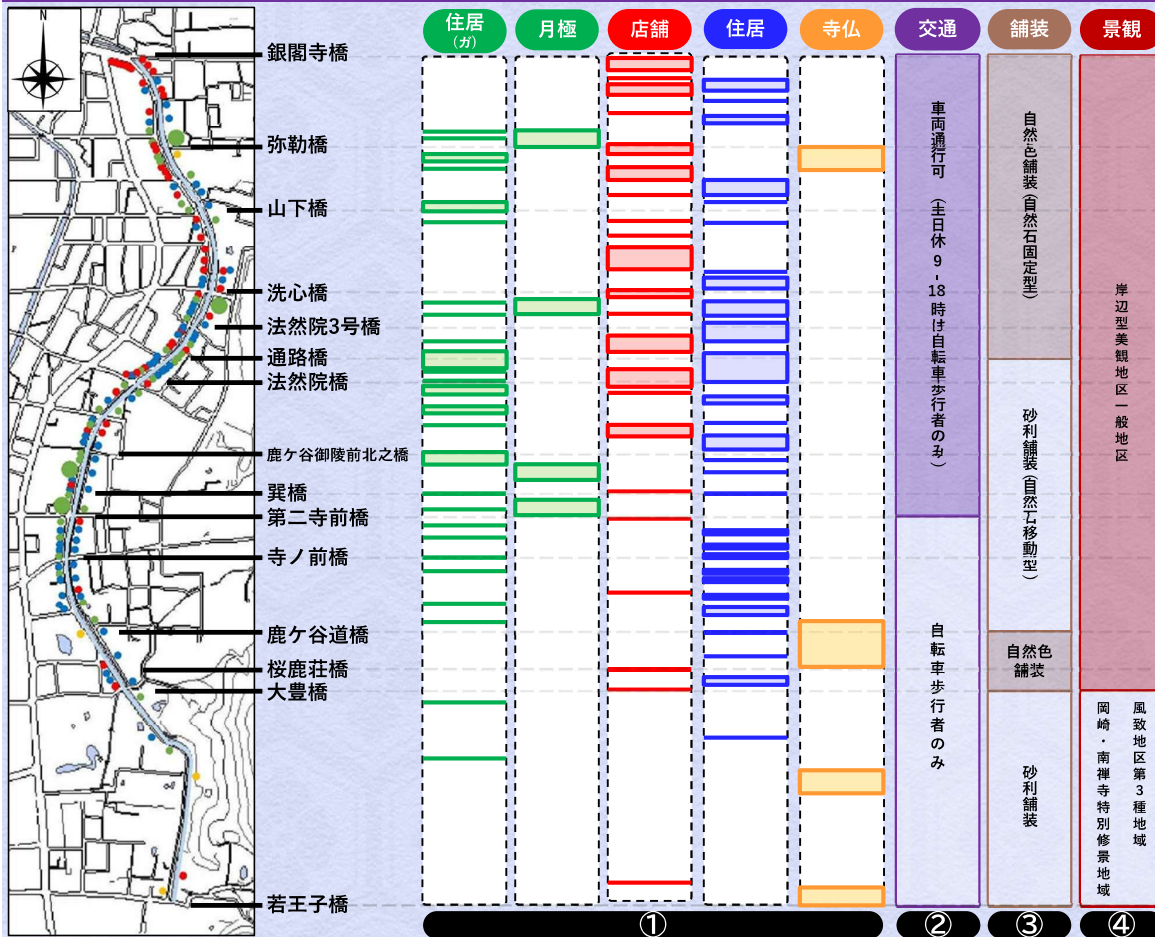
永観堂から南禅寺の周辺では、東山の借景空間の保全を図るため、建築物は和風外観の度合いを高め、京都らしい雰囲気を持すること。

(引用：特別修景地域内に適用する許可基準)



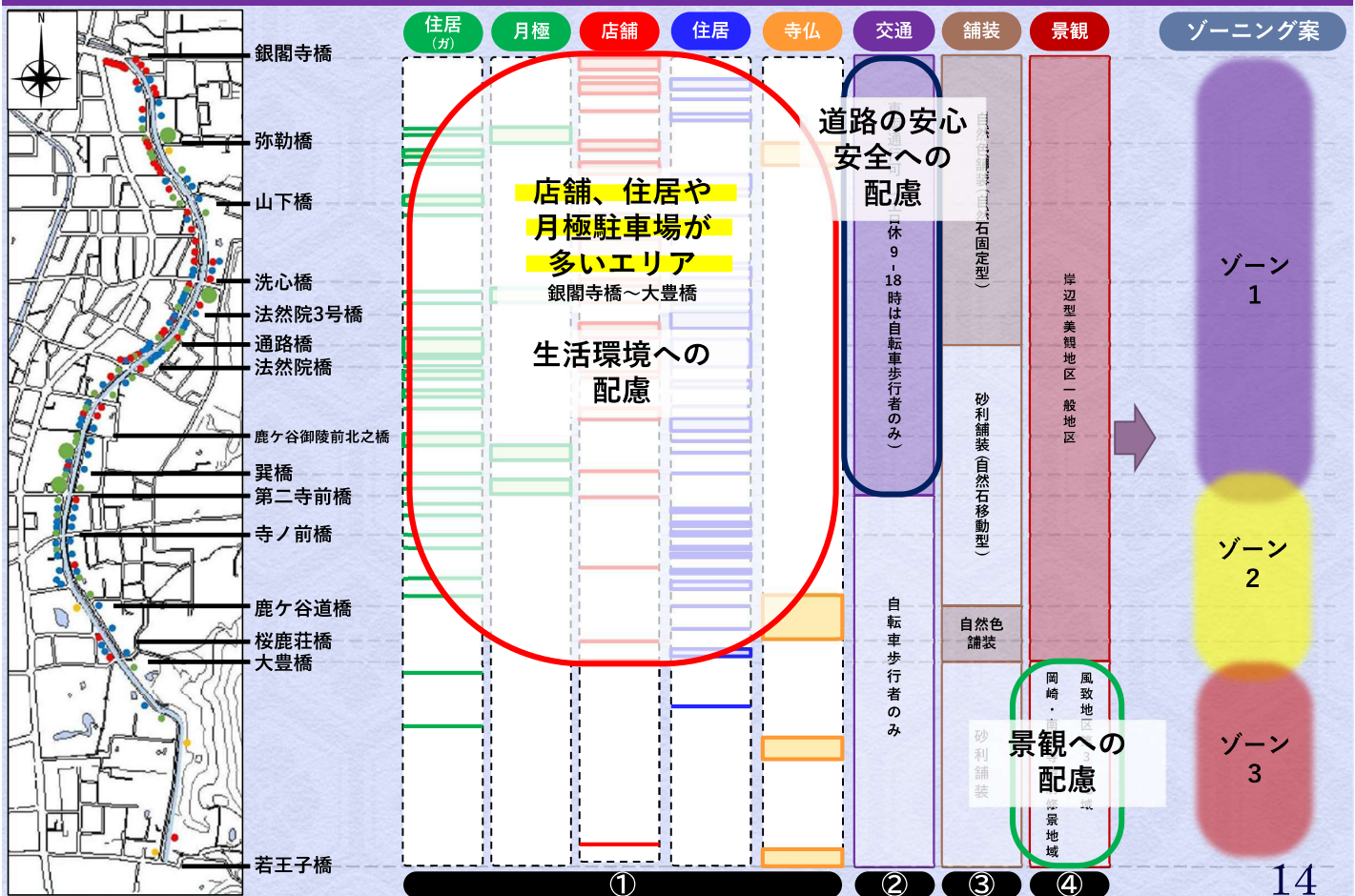
12

ゾーニングの検討 ～①②③④の整理～



13

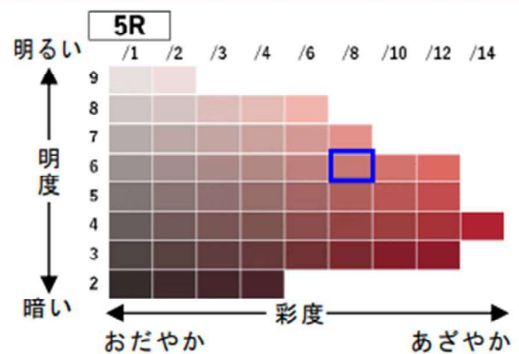
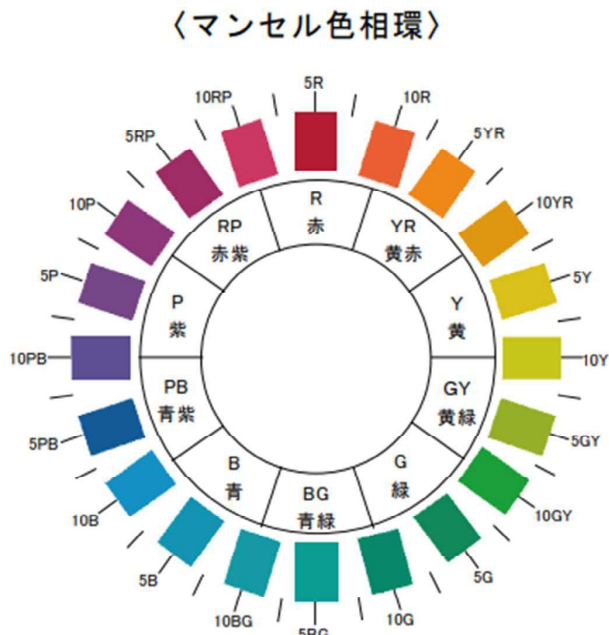
ゾーニングの検討 ～①②③④の整理～



14

路面デザインの検討 ～色相～

カラーチャートの見方



マンセル値の表記

【上記の場合】

ごアール ろく の はち
5R 6 / 8
 色相 明度 彩度

白、黒、グレーの色みのない色を無彩色といい、明度（明るさの度合い）しかありません。無彩色の場合、**N 6** と表記します。

引用【https://www.city.nagaokakyo.lg.jp/cmsfiles/contents/0000001/1488/10_munsell.pdf】

15

路面デザインの検討 ～京のみちデザイン指針～

京都の景観と調和し、その背景として景観を引き立てるデザインを実現していくことを目的とした指針

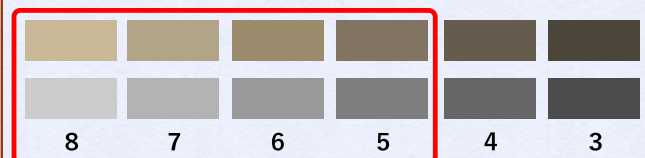
※以下、指針より抜粋

※路面デザインを検討するにあたり、参考資料として紹介するもの

●舗装デザイン

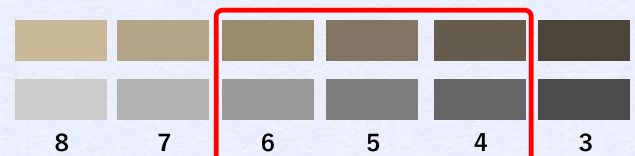
歴史的地域

- ・無彩色及び地道色を基本とし、無彩色の明度は5～8程度とする。
- ・地道色については周辺の景観色、建造物の色調に配慮して色彩を決定する。
- ・木造建築物が隣接する道路では、地道色を優先する。



自然周辺地域

- ・無彩色及び地道色を基本とし、無彩色の明度は4～6程度とする。



	歴史的地域	自然周辺地域
風景		
景観色彩の特性	歴史のある木造建築、屋根瓦、石垣、土塀などの自然素材の色により、全体的に重厚でくらしい色調	四季により変化する色調（山並みの色、岸辺に植えられた植栽）
調和のさせ方	対比調和 周辺景観の色彩に対して、相対的に明度による適度なコントラストを持たせることにより調和を図る。	同調調和 変化する自然や多様な色彩を有する景観色に溶け込み、同化させることによって調和を図る。
明度	中～高明度	中明度
地域特性	世界遺産及びその周辺、風情ある町並みが存在する地域	山間部及び山ろく部や河川に隣接する自然豊かな地域
事例	 堀川通 (西本願寺) 浄福寺通 (大黒町)	 川端通 洛北疏水沿い

16

路面デザインの検討 ～哲学の道の色相～

各種舗装の色相を参考にし、全体の基調にふさわしい色相を検討する

①土系舗装	②真砂土舗装	③透水性高炉スラグ舗装	④自然色舗装	⑤薄層カラー舗装	⑥石畳風舗装	⑦砂利舗装
自然石移動型 (土系舗装)	自然石固定型 (土系舗装)	自然石固定型 (土系舗装)	自然石固定型	自然石固定型 (砂利風舗装)	自然石固定型 (砂利風舗装)	自然石移動型
						
						

地道色 (YR系)

無彩色 (N系)

①土系舗装

②真砂土舗装

③透水性高炉スラグ舗装

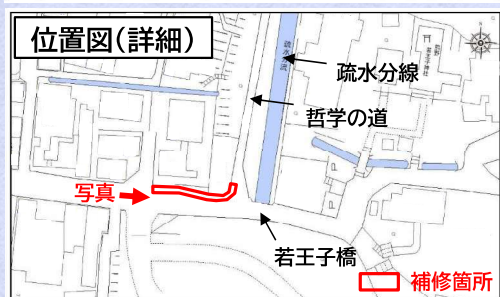
④自然色舗装

⑤薄層カラー舗装

⑥石畳風舗装

⑦砂利舗装

その他(関連事項)



道路端のカラー舗装の修繕工事

施工前



施工後

